

2009年8月19日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

欧米市場は落ち着きを取り戻す

中国株式市場の反発等を受けて、前日の世界的に広がったリスク回避の動きは落ち着きを取り戻しました。欧米市場では、独景況感指数の改善や米小売大手の好決算などを好感して、株式相場は反発しました。

8月の独ZEW景況感指数(期待指数)は56.1と、前月(39.5)から大きく改善し、約3年ぶりの高水準となりました。市場予想(45.0)も大幅に上回りました。ドイツでは、先週発表された4-6月期GDPが前期比+0.3%とプラスに転じており、ドイツ経済が緩やかながら回復に向かっているとの見方が広がり、好感されました。また、米国では市場予想を上回る米小売企業の決算が相次ぎました。米住宅関連小売大手の5-7月期決算は、コスト削減と在庫圧縮により、1株利益が市場予想を上回りました。通期の業績見通しについて、売上予想は▲9%減と従来予想を据え置きましたが、利益見通しを従来の▲26%から▲15~▲20%減益へ上方修正しました。米ディスカウント店大手も、衣類等の不振を健康商品関連等で補うとともに在庫調整等でコストを圧縮し、1株利益は市場予想を大幅に上回りました。いずれも株価は大幅高となり、株式相場を押し上げました。

7月の米住宅着工件数は58.1万件と前月(58.2万件)より減少し、市場予想(59.9万件)を下回りました。住宅建設許可件数も56.0万件と前月(56.3万件)より減少し、市場予想(57.7万件)を大きく下回りました。ただし、減少の要因は「集合住宅」が減少したことによるもので、全体の8割以上を占める「戸建て住宅」は増加しました。「戸建て住宅」の着工件数は5ヶ月連続で増加しており、マーケットでは悲観的な見方は限定的でした。

中国株下落でマーケットの地合いが悪化

国内株式相場は、大手証券会社がレーティングを引き上げた輸送用機器や電気機器が株価指数を押し上げ、寄り付き後は小幅ながらプラス圏で推移しました。商品市況の反発を受けて、資源関連株も堅調でした。しかし、中国株が弱く始まり、円高基調になると、株式相場は下落に転じました。円高進行で輸出関連株の上昇も一服となる中、物色対象となったのがインフルエンザ関連銘柄でした。新型インフルエンザが再び流行の兆しを見せ始めたことから、マスク関連銘柄が軒並み急騰し、繊維セクターが業種別騰落率トップとなりました。14時頃から中国株が下げ足を早めたことから、市場全体にリスク回避の動きが急速に強まりました。円高が加速し、株価指数は先物主導で下げ幅を拡大させました。引けまでの1時間で日経平均株価は100円近く下落し、それまで活発に物色されていた銘柄も急速に上げ幅を縮小させました。結局、日経平均株価は反落し、本日の安値圏で引けました。

再び中国株式相場下落がマーケット全体の重しとなりました。上海総合指数は前日比▲4.3%の大幅安で引けました。同指数は8月4日につけた今年の高値から▲20.2%下落しています。中国政府による流動性引き締めへの懸念がくすぶる一方、足元の株価急落を受けて市場安定化策を期待する声も出ていますが、政府から何の発表もなかったことも失望売りにつながりました。世界的な景気回復のリード役として期待されている中国での株価下落は、本日の欧米市場でも相場の重しになることが予想されます。今後、中国株の調整が長引き、中国景気に水をさすようなことになれば、世界的な景気回復期待が後退し、リスク回避の動きが高まる可能性が考えられます。

以上